

(国語)

**「主体的・対話的に学ぶ子どもの育成」**  
**～伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う～**

大阪市立諏訪小学校 研究部

## 1. 研究主題設定の理由

本校では、教育目標を「豊かな心とたくましい体を育てる」として、日々の教育実践に努めている。ここ数年、国語科を研究教科とし、昨年度より研究主題を「主体的・対話的に学ぶ子どもの育成～伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う～」として研究を進めてきた。「書くこと」で自分の考えをまとめ、友達の意見に触れることで自分の考えを深めたり広げたりできるように努めてきた。一定の成果は見られ、指導者の支援によって、教材を読み取り、深めたことを活かして自分の考えをまとめられる児童が増え、円滑な話し合いを行うことができた。しかし、書いたものを読み合うだけになってしまうことも多く、対話的な交流とならない場面も見られた。また、大阪市学力経年調査では国語科全体の結果のなかでも「書くこと」において大阪市平均を下回る学年が多く見られた。

## 2. 研究の趣旨

「書くこと」に重点を置いて研究を進めてきて、工夫されたワークシートや授業展開の下では、自分の意見や考えを書き進めることができるようになってきた児童が増えてきたものの、学力経年調査においては生かされていないことが明らかとなった。

そこで、自分の考えをもち、なぜそう考えたのか、教材のどこからそれがわかるのかを「伝え合う」、考えを整理する、明確にする、友達と比較できるようにするために「書く」、どこから分かるのか、考えられるのか、どこどこを比べたのかなど、深く正しく「読む」のサイクルを意識していくこととした。また、話し合う活動では、話し合いの観点を明確にして授業を進めることとした。そうすることで自分の思いや考えを表現できる力を身につけさせたい。表現する力がついてくれば、学習に対する意欲も高まってくると考えられる。自分の思いや考えをもち、まとめられるようにし、そのうえで、他者と交流する中で相手の考えを理解したり受け入れたりする力を養いたいと考えた。

## 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 主体的な学びにつながる単元構成や課題揭示の工夫
-----------------------------

○子どもの実態や能力にあった学習課題の設定

指導者は、これまでの国語科の学習を通して、児童の読みの実態や書く力を明確に把握しておく。「教材文」を読んだ児童自身が、学習課題を意識したり設定したりできるように支援する。

また、次のような3つの学習過程を用い、国語科の課題解決型学習を進めていく。

「出会い・見通す」(1次)→「広げる・深める」(2次)→「生かす」(3次)

視点② 基礎・基本的な力を高めるための活動の工夫
--------------------------

○基礎・基本的な力を高めるための教材や場の設定

○音読・視写・読書の活性化

## ○ICT機器の活用の工夫

### 視点③ 互いの考えを交流し、表現する場面における支援の在り方の工夫

#### ○自分の思いや考えを友達の思いや考えと比べたり関連付けたりするために「書く」

学習課題を解決したり、追究したりしていくために文章の叙述をもとに自分の思いや考えを書かせる。「書く」ことで自分の思いを表現し、さらに、学級での交流の際にも堂々と自信を持って発表できるようにする。

#### ○比較したり関連付けたりするために「話す・聞く」活動を中心にした交流活動の展開

児童の話し合う活動が横道にそれることなくスムーズに展開され、子ども達の中で自然に教え合いや学び合いが起こり、「主体的・対話的で深い学び」へ向かわせるために、話し合う活動中における発問、支援、補助発問、補説などの言葉がけを考える。

## 4. 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

#### ○低学年では、話し合う活動につながるように見本の動画を作ってイメージをもたせたり、動作化することで登場人物の気持ちをより考えられたりするようにした。中学年で取り組んだ説明文の学習では、言語活動に向けて並行読書を行い、自分でまとめるための手立てを含めて読み取りを進めた。児童は自分で調べるものを選び、学習を進めたことで、興味をもって活動に取り組むことができた。高学年では、前時までに学習した内容を掲示しておくことで主体的に振り返って本時の学習に生かすことができた。

#### ○言葉集めを行って語彙を増やす、掲示物にして普段から意識できるようにする、朝の会のスピーチを利用する、作文活動を取り入れるなどして、考えをまとめ・書くことができる下地を作った。読書習慣をつけるために、学級文庫用に城東図書館から本を借りて、各クラスで身近に本がある環境を作った。また、地域の方による読み聞かせや朝学習時間に読書タイムを設けるなどしてきた。児童がより多くの文章に親しみ、学校読書の習慣が続いている。

#### ○学年の発達段階や学習内容に応じて、書く量を調節し、中心人物と対人物の心情を比べられるようなワークシートを作成した。また、自分がまとめたものを推敲する場面で話し合う活動を取り入れ、友達の意見を参考にしてよりよいものにしたり、自分が考えたものを友達に伝えて良かったところや「なぜ」の質問を受け付けたりする話し合いを行った。小グループやペアにして考えを伝えやすくする、話型を提示して話し合いを進めやすくする、話し合うポイントを掲示して明確にしておくといった手立てをとった。何回か繰り返し、習慣化することでスムーズな交流が行われ、友達との相違点を探し、新たな気づきを得ている児童が見られた。

### (2) 今後の課題

#### ○ワークシートの工夫や支援の仕方によって、考えを書き、交流することができる児童は増えてきた。しかし、全体での考えの共有の仕方に課題が見られる授業もあった。考えたり話し合ったりする力に個人差も見られ、まだまだ課題は多いと感じられた。互いの考えの交流や表現する場面において、より対話的な交流を促し、自分の思いや考えを表現する力が伸ばせるように、今後も支援の在り方の工夫を模索していきたい。